

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 4 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22760493

研究課題名（和文） 韓国における歴史的建造物の修理技術者の系譜と技法の伝承
—日本人修理技術者の役割—研究課題名（英文） Genealogy of Conservation Architects engaged in the Restoration of
the Korean Historic Buildings and Tradition of Conservation
Methods: Role of Japanese Conservation Architects

研究代表者

金 ミンスク (KIM MINSUK)

立命館大学・立命館グローバルイノベーション研究機構・ポストドクトラルフェロー

研究者番号：80535873

研究成果の概要（和文）：

本研究は、20世紀前半の植民地期における韓国の歴史的建造物の保存と修理工事を取り巻く諸状況を明らかにすることで、日本からもたらされた近代的な修理工事が韓国の修理技術者の系譜と技法の伝承に与えた影響について解明したものである。1930、40年代の韓国の歴史的建造物の修理に関する新たな資料の翻刻作業を行うとともに、当時の資料から窺える修理技術者らのネットワークがわかる図の作成などを試み、その成果については研究論文、口頭発表として報告した。

研究成果の概要（英文）：

This study is to examine closely which influence of the modern restoration that was brought by Japan by clarifying the situation to surround conservation and the repair work of the Korean historic buildings in the colonial period of the early 20th century gave the genealogy of the Korean conservation architects and tradition of the conservation methods. I worked the reprint of a new document on the repair work of the Korean historic buildings from 1930s to 1940s and tried the making of the network figure of the conservation architects. I reported the results of this study as articles and oral presentations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠

キーワード：文化財、歴史的建造物、保存修復、修理技術者、修理技法、朝鮮総督府

1. 研究開始当初の背景

韓国の歴史的建造物の保存に関する研究

は数少なく、この分野の研究史を検討するのは難しい。しかし、近年になって近代史料の

公開もあり、20世紀前半に行われた歴史的建造物の保存に関する研究の深化が図られる状況にある。特に建築史分野では、東京帝国大学の教授であった関野貞の韓国古蹟調査に注目した李明善の「朝鮮古蹟調査と「古蹟及遺物保存規則」について—植民地時代韓国における古建築物保存政策」(『日本建築学会計画系論文集』第557号、2002年7月)をはじめ、文化財保存史全般について論じた趙賢貞の『韓国建造物文化財保存史に関する研究—1910年以降修理された木造建造物を中心として—』(韓国:明知大学校修士論文、2005)と姜賢の『日帝強占期建築文化財保存研究』(韓国:ソウル大学校学位論文、2005)、そして金在国の『日帝期の高麗時代建築物の保存研究』(弘益大学校学位論文、2007)のように高麗時代建立の木造建築物の「修理工事内訳書」と近年の「仕様書」を比較・分析したものなどがある。その他、京都大学所蔵の小川敬吉資料を中心に修理事業の概要をまとめた田中禎彦の「20世紀前半の朝鮮総督府による朝鮮の歴史的建造物の調査保存事業について」(『日本建築学会計画系論文集』第594号、2005年8月)もある。また、東京大学所蔵の膨大な関野貞資料を整理し、その研究成果をまとめた『関野貞アジア踏査』(東京大学総合研究博物館、2005年)なども貴重な資料である。

上記のように20世紀前半の韓国の歴史的建造物の保存に関する研究は近年明らかな進歩を見せている。しかし、これら既往の研究は修理工事のハードな部分、すなわち建物の物理的な変化にしか焦点を当てておらず、ソフト的な部分である修理方針や修理技法と深い関わりを持つ修理技術者にはあまり注目して来なかった。本研究課題はこのような状況に注目したもので、以下の諸点を考慮した。

まず、最近の日本と韓国の両地域では20世紀前半に修理された建造物が再修理される例が増えており、日韓における情報交換や研究活動の交流が活発化し、改めて近代の修理について問い直す機運が高まっていること、次いで20世紀前半に韓国で活躍した修理技術者は日本でも活躍した者が多く、日本建築史学における研究の蓄積を多く活用することができる利点があること、さらに修理事例からみる技法の伝承について模索することで20世紀前半の韓国における歴史的建造物の保存の全体像を俯瞰でき、またそれが現在に及ぼした影響についても考察できることであった。

2. 研究の目的

本研究課題は、世界でも先進的な木造建造物文化圏である東アジアにおける歴史的建造物の保存修復のあり方を再評価するため

に、韓国を研究対象として、特に20世紀前半の植民地期における歴史的建造物の保存と修理工事を取り巻く諸状況を明らかにすることで、日本からもたらされた近代的な修理工事が韓国の修理技術者の系譜と技法の伝承に与えた影響について解明することをその目的としている。そのため、韓国の歴史的建造物の修理において植民地期を起点として生じた変化に焦点を当て、現代まで伝承されたものと途中で断絶(あるいは、消滅)したものを解明するとともにその背景や原因についても考察することで、学術的な研究の推進を試みるものである。

3. 研究の方法

(1) 歴史的建造物の修理工事関連記録に関する調査

歴史的建造物は古代から近代に至るまで様々な時代のものであり、建築当初の材料や技術、建築形式などを全てそのまま保持してきた建造物は殆どないと言っても過言ではない。それゆえ、歴史的建造物の保存のためには今まで行われてきた修理や改造などを明らかにし、その建造物の変遷(修理時の現状変更の内容、復原検討における議論など)を把握するのが第一に必要である。そのため、修理工事報告書を検討するのはもちろん、これまでの作業に引き続き、修理技術者が残した遺稿や日記、修理現場の記録、スケッチや図面・写真資料など1次資料について調査する。また、当時の日本の歴史的建造物の修理工事と関わる資料を調査し、韓国に関する記述がないか探る。

(2) 修理技術者に関する情報収集及び分析考察

韓国の植民地時代における歴史的建造物の保存の場では、すでに日本の修理現場で経験を積んだ修理技術者が携わっていたことは一部知られている。しかし、当時韓国で活躍していた修理技術者らのネットワークや歴史的建造物の保存修理に関する考え方に關しては既往研究でもあまり進展がなかったため、同時期の日本国内の情報を調べることで、日本で行われた歴史的建造物の修理工事の方針や修理方法が韓国に及ぼした影響について比較考察する。

また、戦前期の修理技術者の系譜がわかる図を作成し、戦後韓国人の修理技術者との系譜との関係を把握する。

(3) 歴史的建造物の修理情報の把握及び技法の伝承に関する検討

現代の歴史的建造物の保存修復における保存の手法について歴史的な考察を行うために、歴史的建造物の修理情報に関する一覧表を作成する。また、修理技法・技術・道具

などの情報を整理することで、以下のような項目について考察する。

- ・ 歴史的建造物修理における新技術の導入とその背景
- ・ 建造物の壁画保存－模写・保存手法
- ・ 道具の変化が建物の修理技法に及ぼす影響

4. 研究成果

(1) 20世紀前半の修理工事資料の追加報告
報告者は学位論文『植民地朝鮮における歴史的建造物の保存と修理工事に関する研究－修徳寺大雄殿修理工事を中心として－』

(2008年)で「小川敬吉蒐集資料」に所収された修徳寺大雄殿の修理工事(1937年～1940年)に関する記録を紹介・考察した。本研究課題ではその後新たに発見された林泉資料について追加報告を行うとともに、林泉資料の価値について考察した。

林泉資料は修徳寺権域聖寶館に寄贈されたもので、修徳寺大雄殿の1930年代の修理工事に関わる行政文書と「宝物建造物修徳寺大雄殿修理計画書」(図1)、模写図などで構成されている。資料考察の結果、林泉資料に所収されている行政文書は1930年代の韓国における修理事業の流れを時系列に追える1次資料として非常に貴重なものであり、当時は工事報告として残っている資料も稀な中で「修理計画書」が発見されたことは工事報告と比較しながら修理の前後の方針の変化を考察できるという点でもその資料的価値は高いと言える。成果は学術論文として投稿

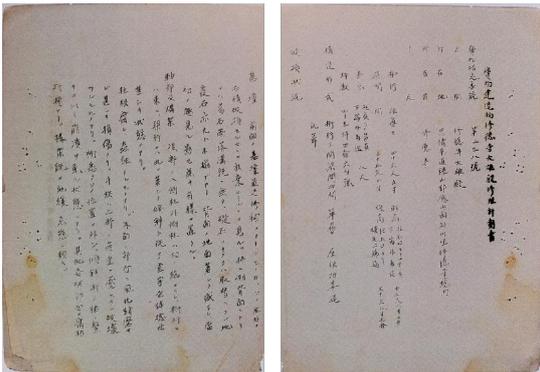


図1 「宝物建造物修徳寺大雄殿修理計画書」計25枚(27.7×19.9、1936年、修徳寺権域聖寶館所蔵)

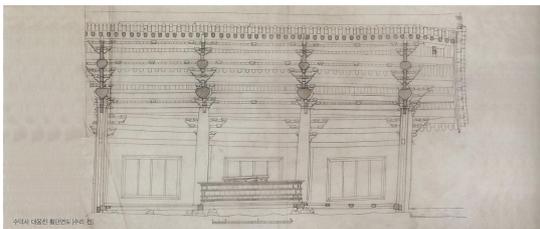


図2 修徳寺大雄殿の修理前の断面図

し、学会発表を行った。

「修理計画書」に示された当時の修理方針をまとめてみると、下記の通りである。

- ① 原形保存を原則としつつ、見えない箇所においては構造補強を採用する。
- ② 構造材として耐えられない材料に関しては取り替えるが、その際には在来のものに倣い作る。
- ③ 曲線線形は型板作成の上、正確に施工する。
- ④ 調査結果に基づいた矩形図の作成とその根拠を明示する。それらを工事報告書に添付する。
- ⑤ 現状変更を要する場合には、施工解体時に十分注意する。
- ⑥ 仕様書は概略を記したものに過ぎないため、現場の係員の指揮に従う。

これらは同時代の日本の歴史的建造物の修理方針とも同様のものである。

また、修徳寺大雄殿の修理計画図の他に修理前の断面図(図2)が新たに発見され、建物の歪みをそのまま表現した図面の作成が行われたことがわかった。

(2) 歴史的建造物の修理情報の把握

各々の修理技術者の経歴や活動を探るとともに彼らの歴史的建造物の修理に関する考え方や系譜を把握するために他の建築設計活動や教育環境なども調査した。

そのため、戦前期の建築界の事情を窺える史料として『朝鮮と建築』、戦前期の日韓の文化財修理技術者の情報交流の場となって

表1 『清交』にみえる韓国の歴史的建造物の修理工事現場に関する情報

工事現場	修理技術者	修理工事期間									
		1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942		
華嚴寺 覺皇殿 (宝物 未指定)	上久保 九市郎	6月									
	楊激洙			11月	4月	11月					
	宮城忠一★						11月	4月	7月	2月	3月
	井戸本 治										
修徳寺 大雄殿 (宝物)	小川敬吉★			2月							12月
	池田宗亀										
	瀧本政太郎●										
平壤 大同門 (宝物)	鄭恩鎮										
	杉山民治			10月						3月	
	岡田宗●										
義州 統軍亭 (三尊)	野村孝文★										
	吉川孝次					3月				10月	
清平寺 極楽殿	板谷定一										7月
	李漢哲										
成川 東明館	杉山民治							9月			3月
	板谷定一										12月
	岡田宗●										
	野村孝文★										
水翠 善龍門 (古蹟)	吉川孝次									12月	3月
	吉川孝次							10月			6月
	上床定一●										
開心寺 大雄殿	池田宗亀									1月	8月
	小川敬吉★										
長安寺 四聖殿	平井茂市									1月	12月
	新井祝植										
	杉山信三★										

○: 『清交』の掲載年月, ★: 監督, ●: 徴兵

いたと思われる同人誌『清交』をはじめ、当時韓国で活躍していた人物らの著作などを中心に、日本の文化財修理が韓国の文化財保護に及ぼした影響と情報・人間のネットワーク、修理技術者らの経歴や活動などに注目してそれらを探る作業を行った。その成果の一部として、『清交』で見られる韓国（当時は朝鮮）の文化財修理と関わる記事、修理技術者らについては、その成果を学術論文として投稿し、学会発表を行った。表1と図3はその成果の一部である。この成果については他の資料から得た情報を補足し、査読の学術論文としての投稿準備を進めている。

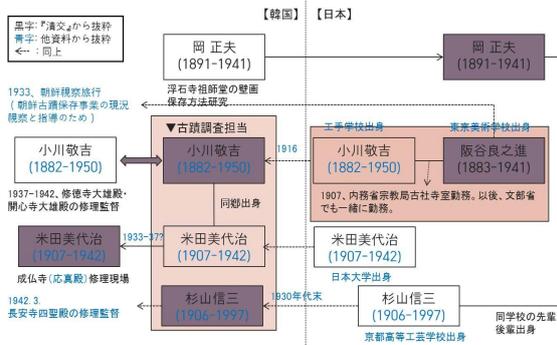


図3 『清交』にみえる韓国の歴史的建造物の修理技術者のネットワーク

(3) 歴史的建造物の修理情報と技法の伝承について

戦前に日本人修理技術者らが監督となって行われた歴史的建造物の修理に関する戦後の評価を把握することに注力した。その手法として、戦後の韓国文化財修理現場の様子を窺える史料である『考古美術』と文化財委員会の議事録を中心に調査を行い、修理現場ごとに再修理の有無、再修理となった理由、現場や文化財委員会にて修理において重視している箇所などについて情報を整理した。また、現在修理が進んでいる現場に関しては、現場視察を通して関係者に聞き取り調査を行った。その成果については、学術論文として投稿し、学会発表を行う予定である。また、継続して関連研究を行ってゆく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 金玟淑、論文表題:『清交』からみる1930～1940年代の韓国文化財建造物の保存と修理、雑誌名:韓国建築歴史学会2012春季学術発表大会資料集、査読:無、発

行年:2012、巻:無、ページ:189-198

- ② 金玟淑、論文表題:1930年代修徳寺大雄殿の修理計画について、雑誌名:2011年度日本建築学会大会学術講演梗概集、査読:無、発行年:2011、巻:F-2、ページ:893-894、

[学会発表] (計2件)

- ① 金玟淑、発表表題:『清交』からみる1930～1940年代の韓国文化財建造物の保存と修理、雑誌名:2012韓国建築歴史学会春季学術発表大会、発表年月日:2012.5.19、発表場所:東義大学校(釜山市・韓国)
- ② 金玟淑、発表表題:1930年代修徳寺大雄殿の修理計画について、学会名等:2011年度日本建築学会大会、発表年月日:2011.8.25、発表場所:早稲田大学(東京都)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金 ミンスク (KIM MINSUK)

立命館大学・立命館グローバルイノベーション研究機構・ポストドクトラルフェロー
研究者番号:80535873